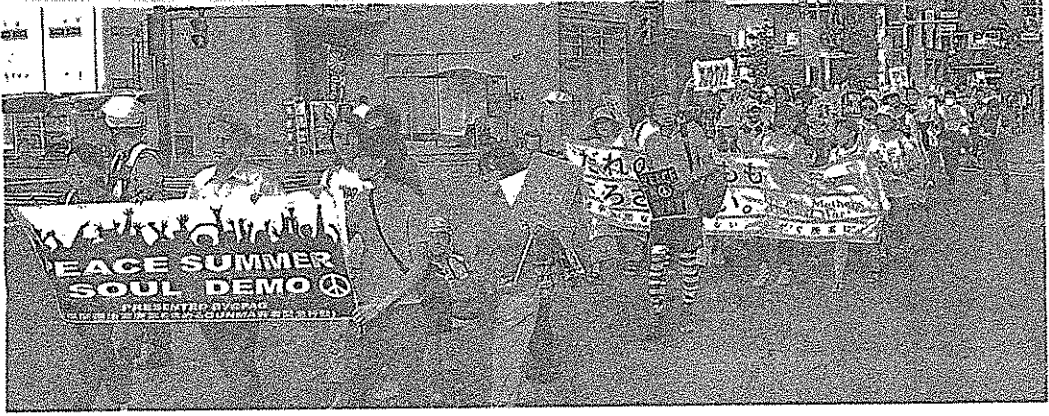


戦争法案「止めよう」各地で

群馬 青年ら集会でデモ

「沈黙は死、沈黙は戦争」



デモ行進する参加者の一列、群馬県高崎市

群馬県高崎市で9日、青年が戦争法案の廃案を求める声を受けようと、県内若者有志で結集した団体「P.A.G.(Peace Action from GUNMA)」が高崎駅西口で集会とデモを行いました。

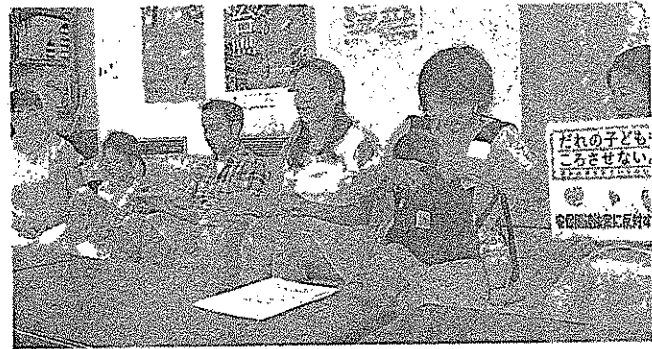
集会では、医師、大学の教員、大学生、子育て世代の母親などがスピーチ。前橋工科大学2年生の岩井菜々子さん(20)は、国会前で「SEALEDsのスピーチを聞き「私もがんばろう。私も止めよう」と思った。沈黙は死。沈黙は戦争。行動が大事です。自衛隊員の命と引き換えの平和はいらない」と語りました。

集会後、県内の弁護士らも含め150人が市内を行進。「平和がいいベネーソうたんベネー！」立憲主義を諦めないなどの横断幕やプラカードを掲げ、車から流れる音楽に乗りながら「集団的自衛

女性議員らアピール

鳥取超党派 6割が賛同

鳥取県内の超党派の女性議員・元議員有志が10日、県庁で記者会見し、戦争法案の廃案を求める「アピール」若者を戦場に送らせないを発表しました。アピールは、日本共産党の市谷知子、錦織陽子の両県議と民主進歩の浜田妙子県議が呼び



戦争法案反対を訴える女性議員ら=10日、鳥取市

権はいらない」「憲法守れ」と唱和しました。自作の「戦争法案反対」の腕章をつけた高校2年生の男子生徒

参加し、「子どもを戦争の犠牲にしないで」と訴えました。社民党元衆院議員の知久馬三子さん(78)は「兄の母の嘆きは忘れられない。安倍首相は独裁者。女性が声を上げるときだ」と語りました。浜田氏は「日本は憲法で守られ、70年間戦争しなかった。子どもの未来のために、

宮城ではママの会

「だれの子どもも殺させない」

「安部関連法案に反対するママの会」宮城の佐々木理香代表らは、10日に仙台市内で記者会見し、「会」の結成を報告するとともに、24日に開く学習会に広く市民に参加してほしいと呼びかけました。

佐々木代表は「だれの子どもも、ころさせない」という一点で共通する全国の会の活動に賛同し、7月20日に会を立ち上げて、会員を募集しているとして「現在会員は16人だが、さらに広げたい」と語りました。

活動への思いを語る佐々木代表(右3人目)=10日、仙台市

8/11 市海

24日の学習会は午後1時半から仙台市民会館で、草場裕之弁護士を講師に開かれます。無料託児所つきで、資料代300円。